慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	矢野久教授略歴・主要業績
Sub Title	Biographical sketch and selected scholarly achievements of professor Hisashi Yano
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	2016
Jtitle	三田学会雑誌 (Mita journal of economics). Vol.108, No.4 (2016. 1) ,p.779(131)- 791(143)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-20160101-0131

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

矢野　　久 教授　略歴・主要業績

＊ 2016年3月31日をもって慶應義塾大学経済学部を定年退職するのにともない，本学会を退会する会員の略歴・主要業績を次頁以下に掲載します。

本誌編集委員会

矢野　久 教授　略歴・主要業績

1950 年 11 月 11 日生まれ

学　歴

1973 年 3 月　慶應義塾大学経済学部卒業

1976 年 3 月　同　　大学院経済学研究科修士課程修了 修士号（経済学）取得

1977 年 4 月　同　　大学院経済学研究科博士課程入学

1978 年 10 月　DAAD 留学生としてドイツ連邦共和国のボーフム・ルール大学に留学
同大学社会科学部にて社会経済史を専攻

1983 年 6 月　ボーフム・ルール大学社会科学博士（Dr.rer soc）取得

1985 年 3 月　慶應義塾大学大学院経済学研究科博士課程 満期退学

職　歴

1985 年 4 月　慶應義塾大学経済学部助手

1989 年 4 月　同　　経済学部助教授

1996 年 4 月　同　　経済学部教授　同大学院経済学研究科委員

1996 年 4 月～1997 年 3 月　ボーフム・ルール大学客員教授

2004 年 4 月　慶應義塾大学大学院社会学研究科委員

2005 年 4 月～2006 年 3 月　ボーフム・ルール大学客員教授

2015 年 7 月～2015 年 9 月　マールブルク大学客員教授

担当科目

学部：社会史，研究会，戦争と社会，経済史入門 I，社会問題 I

大学院：社会史講義，社会史演習

役 職 歴

運営委員　1997 年 10 月～1999 年 9 月
　　2011 年 10 月～2013 年 9 月

企画委員　1993 年 10 月～1995 年 9 月

カリキュラム委員長　2000 年 4 月～2002 年 3 月

非常勤講師

立教大学，学習院大学

学会所属

1977 年 7 月　ドイツ現代史学会

1984 年 6 月　社会政策学会

1984 年 6 月　日本西洋史学会

1985 年 6 月　社会経済史学会

1985 年 6 月　日本ドイツ学会

1985 年 10 月　経営史学会

学内学会委員

慶應義塾経済学会

委　員　1987 年 4 月～1991 年 3 月

委員長　2008 年 4 月～2012 年 3 月

会　長　2014 年 4 月～2015 年 3 月

研究業績

1. 著書

単著（欧文）

Hüttenarbeiter im Dritten Reich. Die Betriebsverhänltnisse und soziale Lage bei der Gutehoffnungshütte Aktienverein und der Fried. Krupp AG 1936 bis 1939, Franz Steiner Verlag, Stuttgart 1986

単著（和文）

『ナチス・ドイツの外国人——強制労働の社会史』現代書館，2004 年

『労働移民の社会史——戦後ドイツの経験』現代書館，2010 年

共編著書（和文）

『1939 ——ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』（井上茂子・芝健介・木畑和子・永岑三千輝との共著）同文舘出版，1989 年

『ドイツ社会史』（アンゼルム・ファウストとの共編著）有斐閣，2001 年

『ナチズムのなかの 20 世紀』（川越修との共編著）柏書房，2002 年

『裁判と歴史学——七三一細菌戦部隊を法廷からみる』（松村高夫との共編著）現代書館，2007 年

『大量虐殺の社会史——戦慄の 20 世紀』（松村高夫との共編著）ミネルヴァ書房，2007 年

『慶應義塾図書館所蔵ドイツ語雑誌解題——経済・社会・歴史を中心に』（古賀理恵子・谷藤優美子との共編著）慶應義塾大学三田メディアセンター，2013 年

『明日に架ける歴史学——メゾ社会史のための対話』（川越修との共著）ナカニシヤ出版，2016 年

2. 翻訳書

ディルク・ブラジウス 『歴史のなかの犯罪——日常からのドイツ社会史』（矢野裕美との共訳）同文舘出版，1990 年

アルノ・ヘルツィヒ 『パンなき民と「血の法廷」ドイツの社会的抗議——一七九〇－一八七〇年』（矢野裕美との共訳）同文舘出版，1993 年

ユルゲン・シェベラ 『ベルリンのカフェ——黄金の一九二〇年代』（和泉雅人との共訳）大修館書店，2000 年

3. 論文

欧文

"Wir sind benötigt, aber nicht erwünscht", in: *Fremde Heimat. Eine Geschichte der Einwanderung aus der Türkei*, hrsg. v. Mathilde Jamin u.a., Klartext Verlag, Essen 1998

"Arbeitsmigration im Steinkohlenbergbau in der Frühphase der Bundesrepublik", in: *Keio Economic Studies*, vol.36, no.2, 1999

"Migrationsgeschichte", in: *Interkulturelle Literatur in Deutschland. Ein Handbuch*, hrsg. v. Carmine Chiellino, Metzler Verlag, Stuttgart/Weimar 2000

"Anwerbung und ärztliche Untersuchung von ›Gastarbeitern‹ zwischen 1955 und 1965", in: *Migration und Krankheit*, hrsg. v. Peter Marschalck und Karl Heinz Wiedl, Osnabrück Unversitätsverlag, Osnabrück 2001

"Arbeitsmigration im Steinkohlenbergbau in der Frühphase der Bundesrepublik", in: *Kulturalismus, Neue Institutionenökonomik oder Theorienvielfalt. Eine Zwischenbilanz der Unternehmengeschichte*, hrsg. v. Jan-Otmar Hesse u.a., Klartext Verlag, Essen 2002

"Die Zwangsarbeiterdiskussion in Japan", in: *Zeitschrift für Genozidforschung*, 7. Jahrgang, Heft 2, 2006

"I lavoratori forzati nelle colonie giapponesi: un confronto con il caso Tedesco", in: *Memoria e rimozione: i crimini di guerra del Giappone e dell'Italia*, a cura di Giovanni Contini, Filippo Focardi e Marta Petricioli, Viella, Roma 2010

和文

「ナチス後期における労働政策とその実態に関する社会史的考察——1936 年秋から 1938 年 6 月まで——」『三田学会雑誌』70 巻 6 号（1977 年 12 月）

「ナチス後期における労働政策とその実態に関する社会史的考察——1938 年 6 月から 1939 年前半期まで——」『三田学会雑誌』71 巻 3 号（1978 年 6 月）

「第二次世界大戦前夜におけるドイツ製鉄業の労働力配分——グーテホフヌンクとクルップ鋳鋼工場の分析——」『三田学会雑誌』77 巻 3 号（1984 年 8 年）

「ナチス期におけるルール労働市場」『三田学会雑誌』78 巻 5 号（1985 年 12 月）

「健康の社会史——ナチス期における労働者の健康状態——」『現代史研究』第 33 号（1987 年）

「外国人強制労働への道——『電撃戦』構想下のドイツにおける労働力動員——」『三田学会雑誌』81 巻 2 号（1988 年 7 月）

「社会政策思想の成立と展開」西村豁通・荒又重雄編『新社会政策を学ぶ』有斐閣，1989 年

「大戦期ナチス・ドイツにおける『近代化』と『統合』問題——労働と社会に関する最近の研究史を中心に——」『三田学会雑誌』82 巻 1 号（1989 年 4 月）

「〈歴史犯罪学〉の成果と展望——西欧における犯罪の社会史的研究を中心に——」（上）（下）『三田学会雑誌』82 巻 2 号（1989 年 7 月），3 号（1989 年 10 月）

「外国人労働者の強制連行強制労働——1941・42 年を中心に——」井上茂子・芝健介・木畑和子・永岑三千輝・矢野久『1939－ドイツ第三帝国と第二次世界大戦』同文舘出版，1989 年

「第二次世界大戦下ドイツ民衆の外国人労働者像」『三田学会雑誌』83 巻 3 号（1990 年 10 月）

「大戦期ナチス・ドイツにおける女性労働動員」（上）（下）『三田学会雑誌』83 巻 1 号（1990 年 4 月），4 号（1991 年 1 月）

「歴史人口学の方法論的再検討」『三田学会雑誌』84 巻 1 号（1991 年 4 月）

「第二次世界大戦期ドイツにおけるソ連人労働者政策の転換」（上）（下）『三田学会雑誌』84 巻 3 号（1991 年 10 月），4 号（1992 年 1 月）

「ナチズムにおける〈民族同胞〉と〈共同体異分子〉——デートレフ・ポイカート『ナチス・ドイツ——ある近代の社会史——』木村靖二・山本秀行訳（三元社，1991 年）によせて——」『三田学会雑誌』85 巻 1 号（1992 年 4 月）

「第二次世界大戦期ドイツの東部占領地域での労働力調達」（I）（II）（III）『三田学会雑誌』85 巻 2 号（1992 年 7 月），3 号（1992 年 10 月），4 号（1993 年 1 月）

「〈文学的想像力〉から〈歴史学的想像力〉へ——ハウプトマン『織工』と 1844 年の同時代人の〈織工〉像をめぐって——」『三田学会雑誌』86 巻 3 号（1993 年 12 月）

「ナチス強制収容所の史的展開——その成立から 1941 年まで」『大原社会問題研究所雑誌』第 423 号（1994 年 2 月）

「ナチス戦時経済と強制労働」『社会経済史学』第 60 巻第 1 号（1994 年 5 月）

「犯罪・刑罰——フーコーと下からの社会史」竹岡敬温・川北稔編『社会史への途』有斐閣，1995 年

「戦時期におけるナチス強制収容所」『三田学会雑誌』89 巻 2 号（1996 年 7 月）

「戦後西ドイツと外国人労働者——イタリア人労働者導入決定への道」『大原社会問題研究所雑誌』第 474 号（1998 年 5 月）

「西ドイツにおける外国人労働者導入への道」『三田学会雑誌』91 巻 2 号（1998 年 7 月）

「西ドイツにおける労働移民健康政策の史的展開——1962 年から 1965 年——」『三田学会雑誌』91 巻 4 号（1999 年 1 月）

「労働移民と健康政策——西ドイツ 1950–1960 年代」『大原社会問題研究所雑誌』第 488 号（1999 年 7 月）

「労働移民とナショナリズム」慶應義塾経済学部編『マイノリティからの展望』弘文堂，2000 年

「強制労働連邦補償基金構想の挫折と『記憶・責任・未来』基金の設立」『ドイツ連邦共和国における「記憶・責任・未来」基金調査報告書』基金調査団発行，2000 年

「外国人労働者の導入と西ドイツ労働市場の制度化」『歴史学研究』第 742 号（2000 年 10 月）

「ドイツ『記憶・責任・未来』基金の歴史的意義」『世界』第 682 号（2000 年 12 月）

「ドイツ『記憶・責任・未来』基金の意義と教訓」『法と民主主義』第 353 号（2000 年 11 月）

「ドイツ『記憶・責任・未来』基金の成立とその歴史的意義」『季刊戦争責任研究』第 30 号（2000 年冬季号）

「21 世紀のマニフェスト　戦争・植民地支配責任をいかに果たすか」（阿部浩己・金富子・丸川哲史との共著）『世界』第 689 号（2001 年 6 月）

「戦後西ドイツにおけるイタリア人労働者の組織的導入——1955 年独伊労働力募集協定の成立をめぐって——」『三田学会雑誌』94 巻 1 号（2001 年 4 月）

「強制連行・強制労働の日独比較」『季刊戦争責任研究』第 33 号（2001 年秋季号）

「ナチス大量虐殺の構造的考察——強制労働・強制収容所・ユダヤ人虐殺——」『三田学会雑誌』94 巻 4 号（2002 年 1 月）

「他者としての外国人労働者」川越修・矢野久編『ナチズムのなかの 20 世紀』柏書房，2002 年

「〈ナチズムのなかの二〇世紀〉——総括と展望」川越修・矢野久編『ナチズムのなかの 20 世紀』柏書房，2002 年

「ドイツの戦後責任と戦後補償——強制労働基金の歴史的意義」『ドイツ研究』第 33・34 号（2002 年 6 月）

「犯罪史——ドイツ史からの展望」社会経済史学会編『社会経済史学の課題と展望』有斐閣，2002 年

「ドイツ戦後補償と強制労働補償基金の意義」『三田学会雑誌』95 巻 4 号（2003 年 1 月）

「戦争・植民地支配責任をいかに果たすか」金子勝・藤原帰一・山口二郎編『東アジアで生きよう！ 経済構想・共生社会・歴史認識』（阿部浩己・金富子・丸川哲史との共著）岩波書店，2003 年

「社会史の認識論的再訪——松村高夫「社会史の認識論的一系譜——ヴィーコからミシュレへ，さらにフェーブルへ——」に寄せて」『三田学会雑誌』97 巻 1 号（2004 年 4 月）

「20 世紀社会とナチズム——川越修『社会国家の生成』に寄せて——」『三田学会雑誌』97 巻 3 号（2004 年 10 月）

「賠償と補償」倉沢愛子他編『岩波講座　アジア・太平洋戦争 8　20 世紀の中のアジア・太平洋戦争』岩波書店，2006 年

「戦後ドイツにおける外国人労働者の居住の社会史」『三田学会雑誌』99 巻 3 号（2006 年 10 月）

「日本の植民地労働者の強制労働——日独の比較社会史の観点から——」『三田学会雑誌』100 巻 4 号（2008 年 1 月）

「ドイツの過去克服」金富子・中野敏男編『歴史と責任——「慰安婦」問題と 1990 年代』青弓社，2008 年

「思想史と社会史の狭間で——川越・植村・野村編『思想史と社会史の弁証法』に寄せて——」『三田学会雑誌』101 巻 1 号（2008 年 4 月）

「日本植民地労働者の強制労働——日独比較の視点から」記録集編集委員会編『南京事件 70 周年国際シンポジウムの記録——過去と向き合い，東アジアの和解と平和を』日本評論社，2009 年

「戦争責任論から植民地責任論へ——永原陽子編『「植民地責任」論——脱植民地化の比較史』（青木書店，2009 年）に寄せて——」『三田学会雑誌』102 巻 3 号（2009 年 10 月）

「ナチス・ドイツにおける住民の警察化——日独比較史の観点から——」『三田学会雑誌』102 巻 4 号（2010 年 1 月）

「ヴァイマル共和制初期におけるプロイセン『治安秩序警察』の成立過程——王立国家警察から人民治安秩序警察・治安警察・治安秩序警察へ——」『三田学会雑誌』104 巻 1 号（2011 年 4 月）

「ドイツ近代プロイセン警察からナチ警察へ——〈現代化〉の先取り？」大日方純夫・林田敏子編『近代ヨーロッパの探求警察』ミネルヴァ書房，2012 年

「1950・60 年代西ドイツ歴史学とフランス・アナール学派」『三田学会雑誌』105 巻 4 号（2013 年 1 月）

「『歴史的社会科学』の成立——1960 年代から 70 年代半ばのドイツ社会史群像——」『三田学会雑誌』108 巻 1 号（2015 年 4 月）

「歴史学とセクシュアリティ——ダグマー・ヘルツォーク『セックスとナチズムの記憶』をめぐって——」（水戸部由枝との共著）『三田学会雑誌』108 巻 1 号（2015 年 4 月）

「人文科学から社会科学への歴史学の転換——フランソワ・シミアンの歴史的方法批判をめぐって——」（難波ちづるとの共著）『三田学会雑誌』108 巻 2 号（2015 年 7 月）

「ドイツ強制労働補償基金の歴史的意義——日本の見習うべき道？」『東海史学』第 50 号（2016 年 3 月）

4. Web

「慶應義塾図書館所蔵ドイツ語雑誌（経済・社会・歴史）解題」（共著）慶應義塾図書館ホームページ掲載（2003 年 5 月）

5. 書評

「ゲオルグ・G・イッガース『ヨーロッパ歴史学の新潮流』中村幹雄・末川清・鈴木利章・谷口健治訳（晃洋書房，1986 年）」『社会経済史学』第 52 巻第 5 号（1986 年 12 月）

「大塚忠『労使関係史論——ドイツ第 2 帝政期における対立的労使関係の諸相』（関西大学出版部，1987 年）」『関西大学経済論集』第 37 巻第 3 号（1987 年 9 月）

「G. チブラ『世界経済と世界政治　再建と崩壊　1922–1931』三宅正樹訳（みすず書房，1989 年）」『図書新聞』第 645 号（1989 年 6 月 17 日）

「藤田幸一郎『都市と市民社会——近代ドイツ都市史——』（青木書店，1988 年）」『三田学会雑誌』81 巻 3 号（1988 年 10 月）

「一条和生『ドイツ社会政策思想と家内労働問題』（御茶の水書房，1990 年）」『日本労働研究雑誌』第 373 号（1990 年 11 月）

「中村幹雄『ナチ党の思想と運動』（名古屋大学出版会，1990 年）」『社会経済史学』第 56 号第 5 号（1990 年 12 月）

「F.-J.Brüggemeier/Th.Rommelspacher（Hrsg.）: Besiegte Natur. Geschichte der Umwelt im 19. und 20. Jahrhundert, München 1989（1987[1]）」『三田学会雑誌』84 巻 2 号（1991 年 7 月）

「川越修・姫岡とし子・原田一美・若原憲和『近代を生きる女たち——19 世紀ドイツ社会史を読む』（未來社，1990 年）」『三田学会雑誌』84 巻 4 号（1992 年 1 月）

「デートレフ・ポイカート『ナチス・ドイツ——ある近代の社会史——』木村靖二・山本秀行訳（三元社，1991 年）」『社会経済史学』第 58 巻第 2 号（1992 年 6/7 月）

「近藤和彦『民のモラル』（山川出版社，1993 年）」『社会経済史学』第 60 巻第 5 号（1994 年 12 月/1995 年 1 月）

「永岑三千輝『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆　1941–1942』（同文舘出版，1994 年）」『社会経済史学』第 62 巻第 1 号（1996 年 4/5 月）

「永岑三千輝『ドイツ第三帝国のソ連占領政策と民衆　1941–1942』（同文舘出版，1994 年）」『三田学会雑誌』89 巻 1 号（1996 年 4 月）

「栗原優『ナチズムとユダヤ人絶滅政策』（ミネルヴァ書房，1997 年）」『社会経済史学』第 64 巻第 4 号（1998 年 10/11 月）

“Rezension zu K. Schönwälder: *Einwanderung und ethnische Pluralität. Politische Entscheidungen und öffentliche Debatten in Großbritannien und der Bundesrepublik von den 1950er bis zu den*

1970er Jahren; Essen 2001", in: *Westfälische Forschungen*, Bd. 53 (2003)
「川越修『社会国家の生成——20 世紀社会とナチズム』(岩波書店, 2004 年)」『図書新聞』2695 号 (2004 年 9 月 25 日)
「近藤潤三『移民国としてのドイツ——社会統合と平行社会のゆくえ——』(木鐸社, 2007 年)」『史学雑誌』第 117 巻第 12 号 (2008 年 12 月)
「石田勇治・武内進一編『ジェノサイドと現代世界』(勉誠出版, 2011 年)」『図書新聞』第 3028 号 (2011 年 9 月 3 日)
「鷸沢歩編『ドイツ現代史探訪——社会・政治・経済』(大阪大学出版会, 2011 年)」『経営史学』第 49 巻第 2 号 (2014 年 9 月)
「伊藤セツ『クラーラ・ツェトキーン——ジェンダー平等と反戦の生涯』(御茶の水書房, 2013 年)」『女性とジェンダーの歴史』第 2 号 (2014 年 11 月)

6. その他

「労働運動と女性——総括シンポジウム」『現代史研究』第 32 号 (1985 年)
「西ドイツ社会史の社会史的考察」『三色旗』第 484 号 (1988 年 4 月号)
「統一ドイツとオーデル・ナイセ国境線」『三色旗』第 510 号 (1990 年 9 月号)
鷲見洋一・不破有理・松村高夫・宮崎洋・矢野久・大島通義「座談会　社会史のすすめ」『三色旗』第 523 号 (1991 年 10 月号)
「社会史文献案内」『三色旗』第 523 号 (1991 年 10 月号)
「ヨーロッパ：現代：ドイツ (1992 年の歴史学会：回顧と展望)」『史学雑誌』第 102 巻第 5 号 (1993 年 5 月)
「アウシュビッツ・絶滅政策・近代」『三色旗』第 559 号 (1994 年 10 月号)
神田順司・矢野久「対談　ドイツの学問的風土」『三色旗』第 565 号 (1995 年 4 月号)
「ドイツにおける戦争責任と戦後処理——西尾幹二氏への批判」『三色旗』第 577 号 (1996 年 4 月号)
「ナチス強制収容所とユダヤ人虐殺」『三色旗』第 592 号 (1997 年 7 月号)
「わが青春のひとコマ」『慶應義塾大学日吉紀要　ドイツ語学・文学』第 36 号 (2003 年 3 月)
「社会史研究の現場から」『三色旗』第 725 号 (2008 年 8 月号)
「文書館の一次史料と居住の社会史」『三色旗』第 725 号 (2008 年 8 月号)
「日常性の中の季節——歴史学の転換」『三色旗』第 775 号 (2012 年 10 月号)
「特集：歴史認識の現在——理論と実証——　序」『三田学会雑誌』108 巻 1 号 (2015 年 4 月)

7. 研究・学会発表

（ドイツ語/英語）

1997 年　Die 8. Jahrestagung des Arbeitskreises für Kritische Unternehmens- und Industriegeschichte (“Eine kulturalistische Wende in der Unternehmensgeschichtsschreibung?”) in Bochum 9.–10.10.1997.

Vortrag: “*Arbeitsmigration im Steinkohlenbergbau in der Frühphase der Bundesrepublik*”

1998 年　Die Tagung des Institut füer Migrationsforschung und Interkulturelle Studien der Universität Osnabrück (“Migration - Krankheit und Gesundheit. Aspekte von mental health und public health in der Versorgung von Migranten”) in Osnabrück 18.–20.6.1998

Vortrag: “*Anwerbung und ärztliche Untersuchung von ›Gastarbeitern‹ zwischen 1955 und 1965*”

2001 年　International Conference on Japanese Crimes Against Humanity: Sexual Slavery and Forced Labor, in Los Angeles（USA）28.–30.11.2001

Paper: *“Forced Labor: A Comparative Analysis of Japan and Germany”*

2006 年　Vortragsreihe des Lehrstuhl für Neuere und Neueste Geschichte und Dedaktik der Geschichte des Historischen Institut der Fakulutät Kulturwissenschaften der Universität Dortmund: “Über Verbrechen reden?! Umgang mit Menschenrechtsverbrechen in globaler Perspektive” (08.11.2005–31.01.2006)

Vortrag: *“Die Zwangsarbeiterdiskussion in Japan*”（8.11.2005）

2007 年　International Conference “Memoria e rimozione: i crimini di guerra del Giappone e dell’Italia” in Firenze 24.–25.9.2007

Paper: “*Enforced Labour of Koreans and Chinese in Japan*”

2009 年　International Conference “Violence, Civility and Statehood in Europe and Japan” in Kobe 27.–31.3.2009

Paper: “*Policing and political legitimacy in Germany and Japan in comparative perspective*”

（日本語）

1984 年　ドイツ現代史学会第 8 回大会

報告「ナチズム体制下の経済と政治——メイソン・テーゼをめぐって」

1993 年　社会政策学会関東部会

報告「ナチス・ドイツにおける外国人労働者政策」

1993 年　社会経済史学会第 62 回全国大会

報告「ナチス戦時経済と強制労働」

1995 年　ドイツ現代史学会第 18 回大会（1995 年 7 月 28 日）

報告「ナチズム研究の現状と課題」

2000 年　日中共同シンポジウム「戦争責任と戦後補償」（2000 年 10 月 16・17 日北京）

報告「ドイツ『記憶・責任・未来』基金の意義と教訓」

2001 年　日本ドイツ学会フォーラム 1（2001 年 6 月 23 日）

報告「ドイツの戦争責任と戦後補償——強制労働基金の歴史的意義」

2001 年　現代史研究会例会（2001 年 12 月 15 日）

報告「他者としての外国人労働者」

2002 年　ドイツ現代史研究会例会（2002 年 1 月 19 日）

報告「強制労働の日独比較」

2002 年　ドイツ現代史学会第 25 回大会（2002 年 7 月 28 日）

シンポジウム「20 世紀をどう捉えるか——現代史学への問い」

コーディネーター

2003 年　ドイツ現代史学会第 26 回大会（2003 年 9 月 23 日）

シンポジウム「現代史と社会史研究」問題提起

8. 賞

2004 年度社会政策学会奨励賞

『ナチス・ドイツの外国人——強制労働の社会史』現代書館，2004 年

2010 年度義塾賞

『労働移民の社会史——戦後ドイツの経験』現代書館，2010 年

9. 教育上の業績

学部・大学院での特別招聘助教授との合同講義

ヴェルナー・プルンペ（Werner Plumpe）（フランクフルト大学社会経済史助教授（＝当時））

1998 年 9–11 月

学部基本科目「社会史」

大学院講義「社会史」

アンゼルム・ファウスト（Anselm Faust）（ノルトライン・ヴェストファーレン州立文書館上級研究員（＝当時））

2000 年 10 月

学部特殊科目「ドイツ社会史」

大学院演習ならびに講義「社会史」

マルク・シュペーラー（Mark Spoerer）（ホーエンハイム大学社会経済史助教授（＝当時））

2004 年 11 月

学部基本科目「社会史」

大学院講義「社会史」

大学院講義「欧米経済史」

クリスティアン・クラインシュミット（Christian Kleinschmidt）（ボーフム大学社会経済史助教授（＝当時））

2004 年 11・12 月

学部基本科目「社会史」

大学院講義「社会史」

大学院講義「欧米経済史」